

よろずは

平成二九年

一月号

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みしたものです。

歌碑めぐり

19

- ① 吾妹子が見し鞆の浦のむろの木は常世にあれど見し人そなき
- ② 鞆の浦の磯のむろの木見むごとに相見し妹は忘れえめやも
- ③ 磯の上に根這ふむろの木見し人をいつらと問はば語り告げむか

卷三の四四六〜四四八番歌

わがいとしい妻が往路に見た、鞆の浦のむろの木は、長く命を保っているのに、見た妻は今はどうもない。これからも、鞆の浦の磯に生えたむろの木を見るたびに、共に見た妻を忘れることにはないだろう。磯のほとりに根を伸ばすむろの木よ。かつて見た人は今どこにいるのかと私が聞いたら、お前は語って教えてくれるだろうか。

天平2年(七三〇)12月、大伴旅人が大宰府から平城京へ帰る道中で詠んだ歌々です。3年前に妻を大宰府で亡くしたため、行きは一緒に見た鞆の浦の「むろの木」(ネス・ネスミサシ、ハイネス)を、帰りは妻のことを思いながら見る悲しさが詠まれています。

今、広島県福山市鞆にはこれらの万葉歌碑3基がそれぞれ点在しています。もっとも古い①が昭和39年(一九六四)に、もっとも新しい③が平成22年(二〇一〇)の建碑です。鞆の美しい景観を臨みつつ、3つの歌碑をめぐる旅も良いですね。

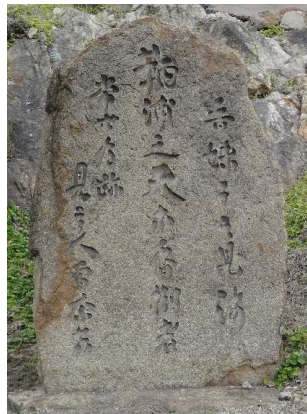
【万葉古代学係】



② 福山市鞆の浦歴史民俗資料館前



③ 医王寺境内



① 福禅寺対潮楼の石垣下